

令和2年度病床機能報告の状況 (速報値)

1. 報告病床数(全県, 圏域別)
2. 令和7(2025)年における必要病床数の比較

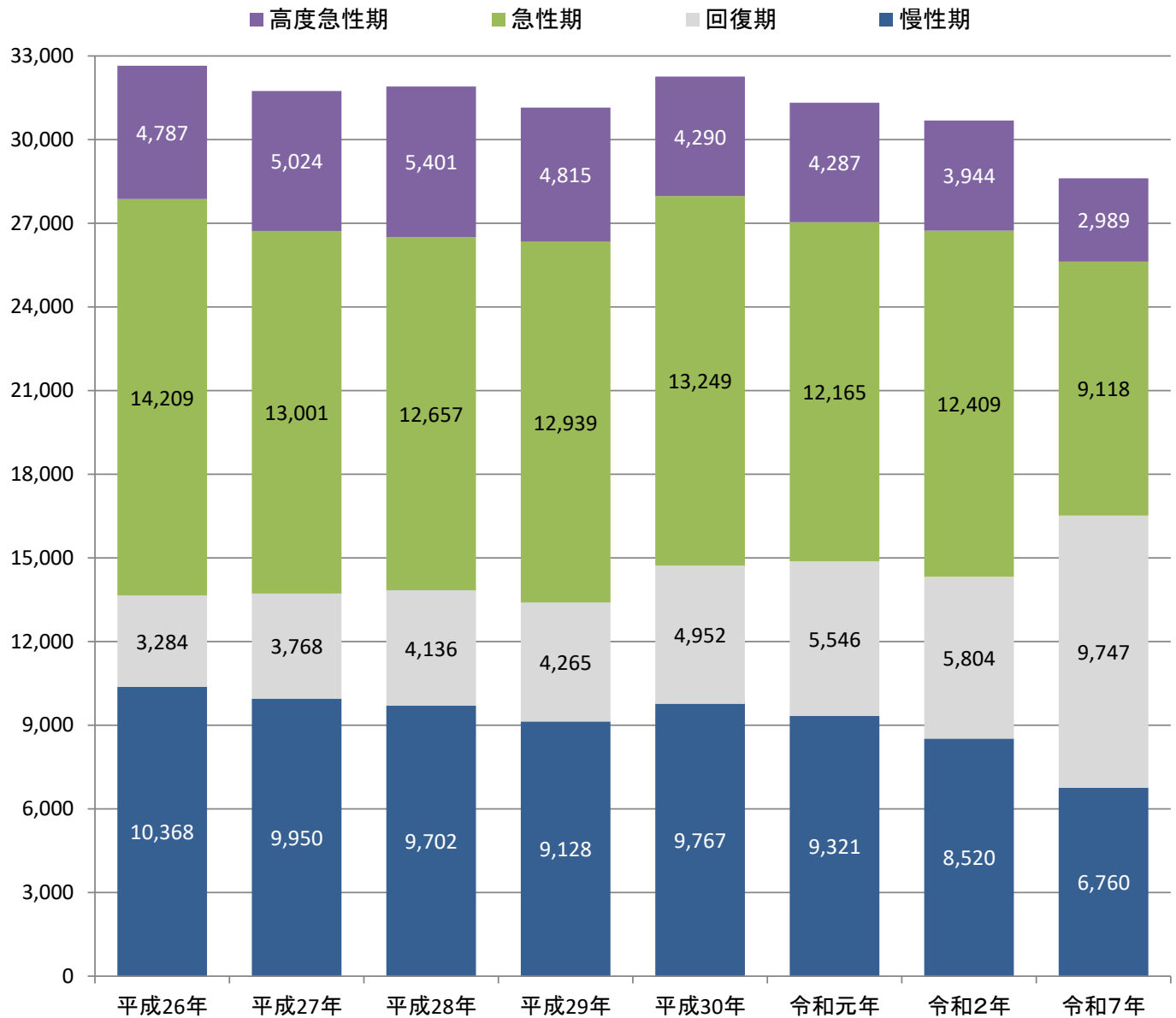
令和3年3月18日

第3回

広島県医療審議会保健医療計画部会

1 令和元年度病床機能報告

(1) 報告病床数(全県)

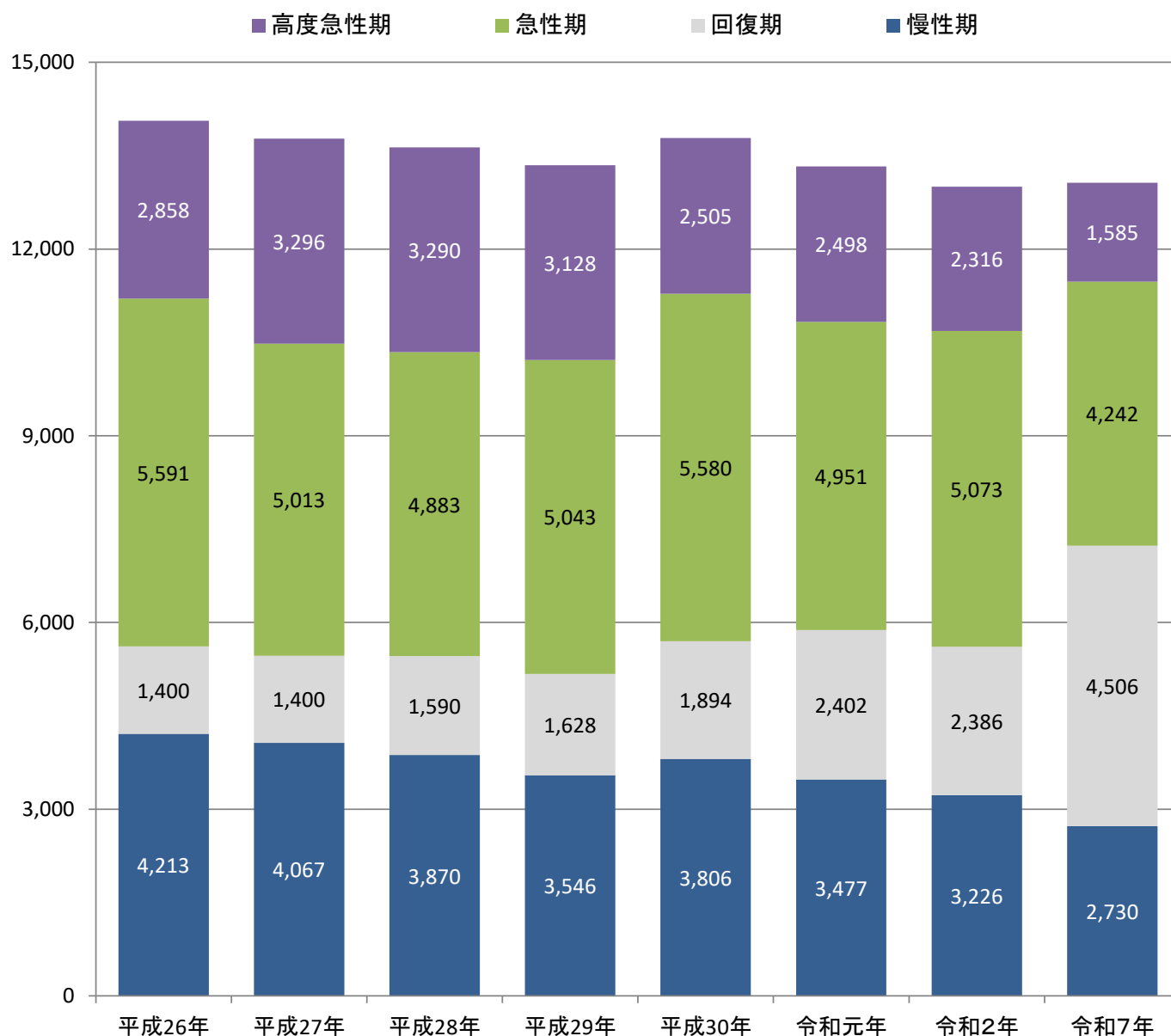


暫定推計値

	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
高度急性期	4,787	5,024	5,401	4,815	4,290	4,287	3,944	2,989
急性期	14,209	13,001	12,657	12,939	13,249	12,165	12,409	9,118
回復期	3,284	3,768	4,136	4,265	4,952	5,546	5,804	9,747
慢性期	10,368	9,950	9,702	9,128	9,767	9,321	8,520	6,760
計	32,648	31,743	31,896	31,147	32,258	31,319	30,677	28,614
(休棟等)	323	517	692	436	783	727	834	
合計	32,971	32,260	32,588	31,583	33,041	32,046	31,511	

※各年, 7月1日時点の状況

(2) 報告病床数(広島圏域)

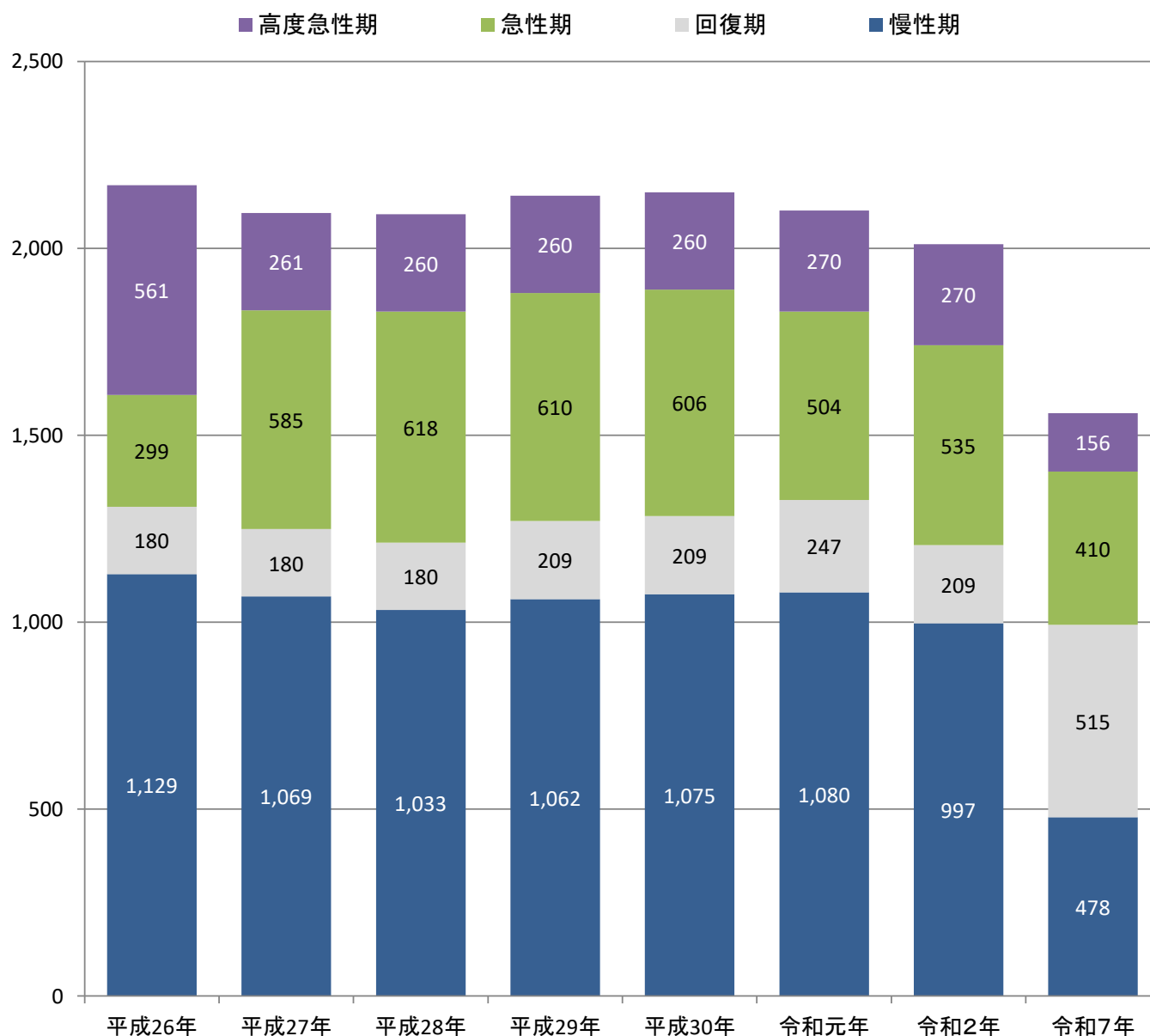


暫定推計値

	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
高度急性期	2,858	3,296	3,290	3,128	2,505	2,498	2,316	1,585
急性期	5,591	5,013	4,883	5,043	5,580	4,951	5,073	4,242
回復期	1,400	1,400	1,590	1,628	1,894	2,402	2,386	4,506
慢性期	4,213	4,067	3,870	3,546	3,806	3,477	3,226	2,730
計	14,062	13,776	13,633	13,345	13,785	13,328	13,001	13,063
(休棟等)	118	174	322	154	309	341	333	
合計	14,180	13,950	13,955	13,499	14,094	13,669	13,334	

※各年、7月1日時点の状況

(3) 報告病床数(広島西圏域)

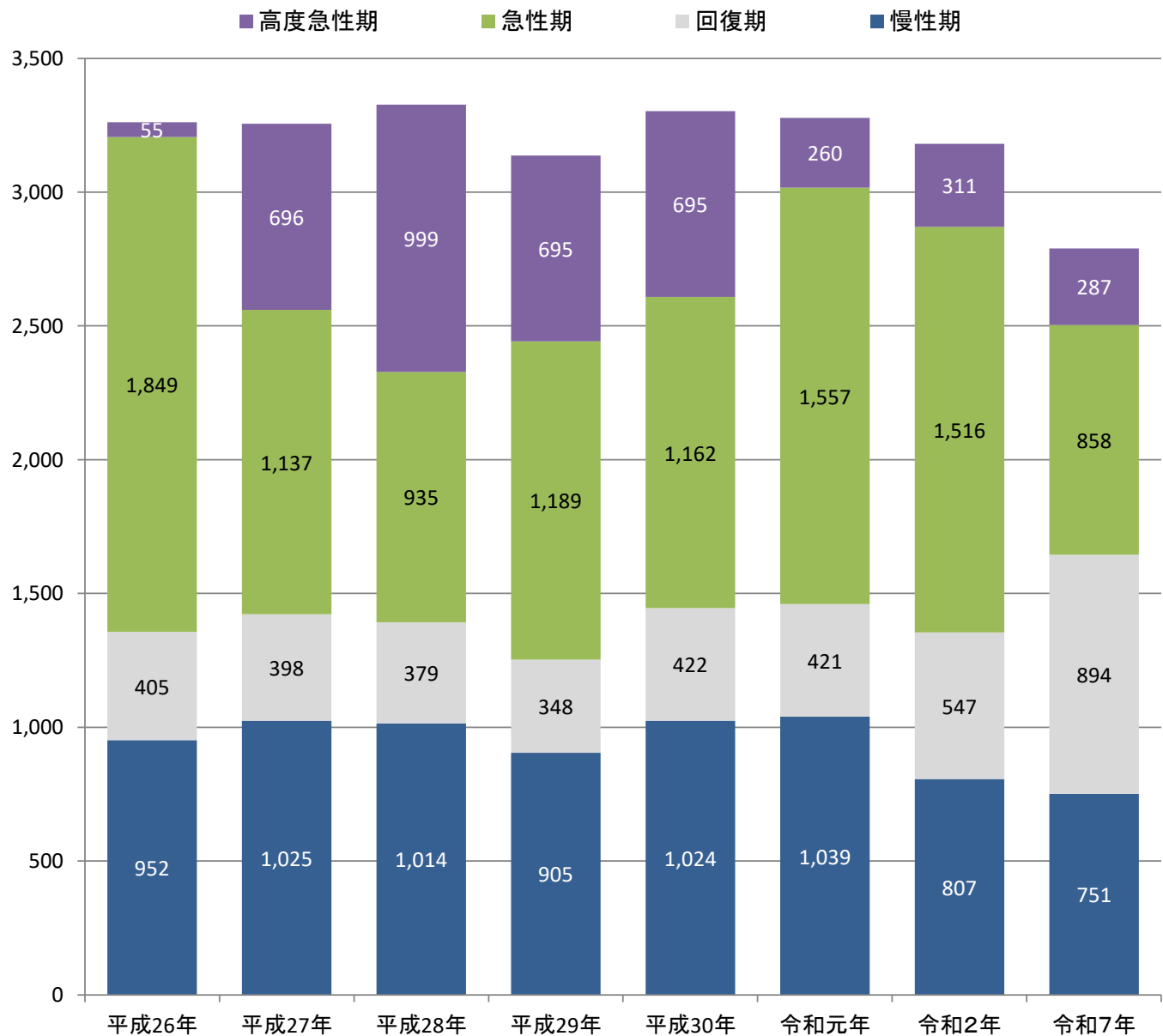


暫定推計値

	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
高度急性期	561	261	260	260	260	270	270	156
急性期	299	585	618	610	606	504	535	410
回復期	180	180	180	209	209	247	209	515
慢性期	1,129	1,069	1,033	1,062	1,075	1,080	997	478
計	2,169	2,095	2,091	2,141	2,150	2,101	2,011	1,559
(休棟等)	0	9	9	9	27	18	0	
合計	2,169	2,104	2,100	2,150	2,177	2,119	2,011	

※各年, 7月1日時点の状況

(4) 報告病床数(呉圏域)



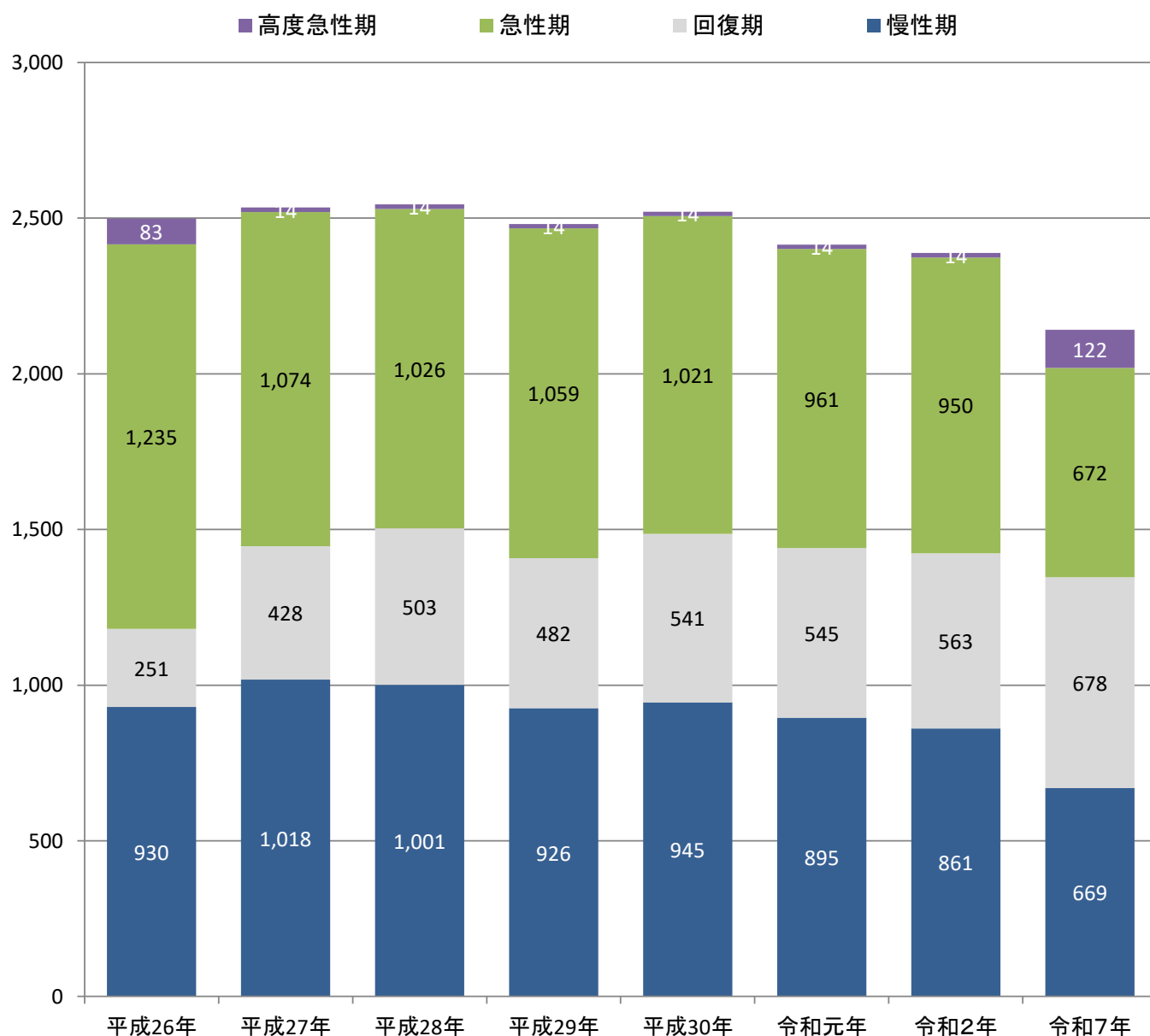
暫定推計値

	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
高度急性期	55	696	999	695	695	260	311	287
急性期	1,849	1,137	935	1,189	1,162	1,557	1,516	858
回復期	405	398	379	348	422	421	547	894
慢性期	952	1,025	1,014	905	1,024	1,039	807	751
計	3,261	3,256	3,327	3,137	3,303	3,277	3,181	2,790
(休棟等)	76	109	124	112	128	135	135	
合計	3,337	3,365	3,451	3,249	3,431	3,412	3,316	

以上
以上

※各年, 7月1日時点の状況

(5) 報告病床数(広島中央圏域)

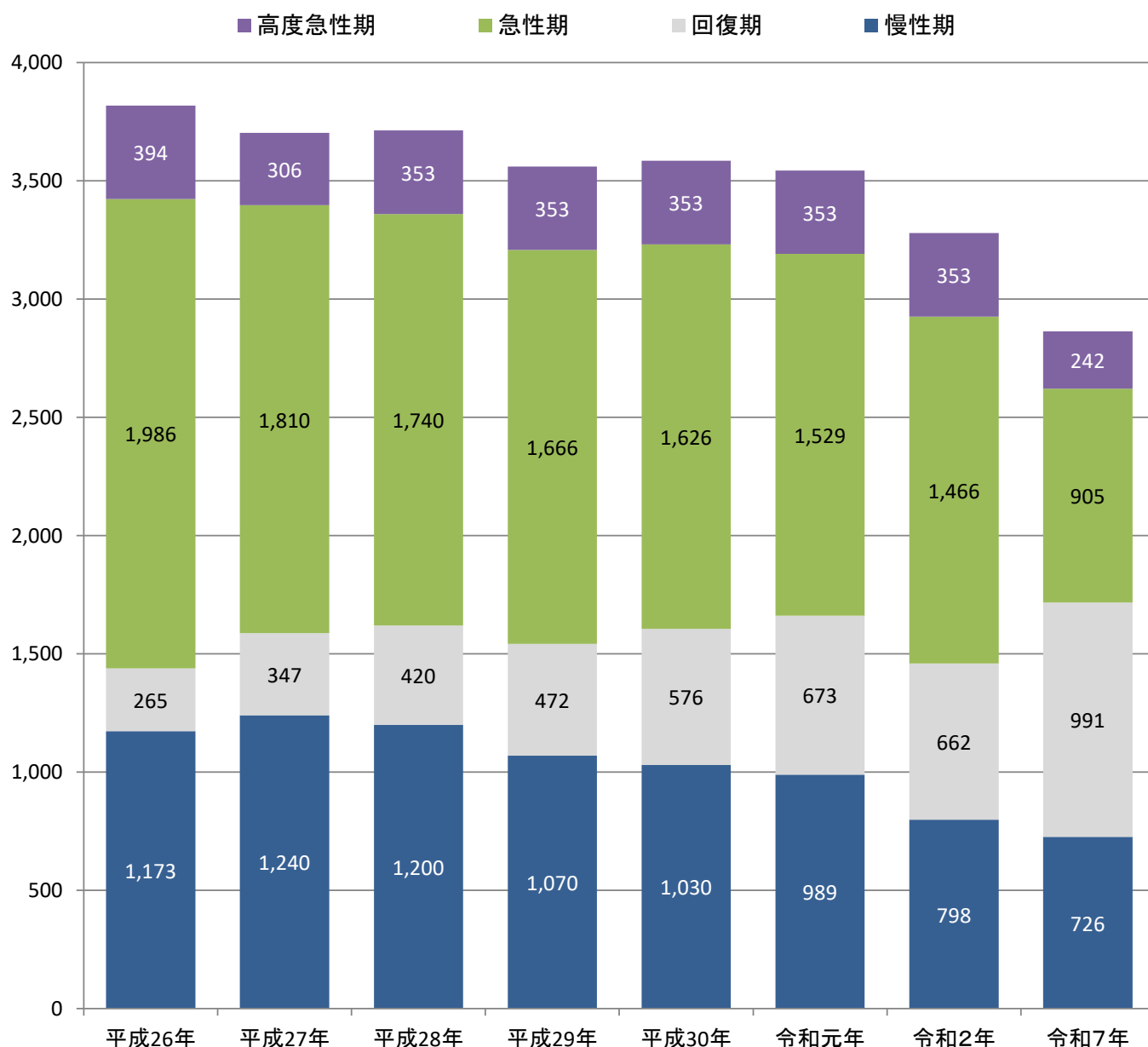


暫定推計値

	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
高度急性期	83	14	14	14	14	14	14	122
急性期	1,235	1,074	1,026	1,059	1,021	961	950	672
回復期	251	428	503	482	541	545	563	678
慢性期	930	1,018	1,001	926	945	895	861	669
計	2,499	2,534	2,544	2,481	2,521	2,415	2,388	2,141
(休棟等)	25	25	44	11	0	9	20	
合計	2,524	2,559	2,588	2,492	2,521	2,424	2,408	

※各年, 7月1日時点の状況

(6) 報告病床数(尾三圏域)

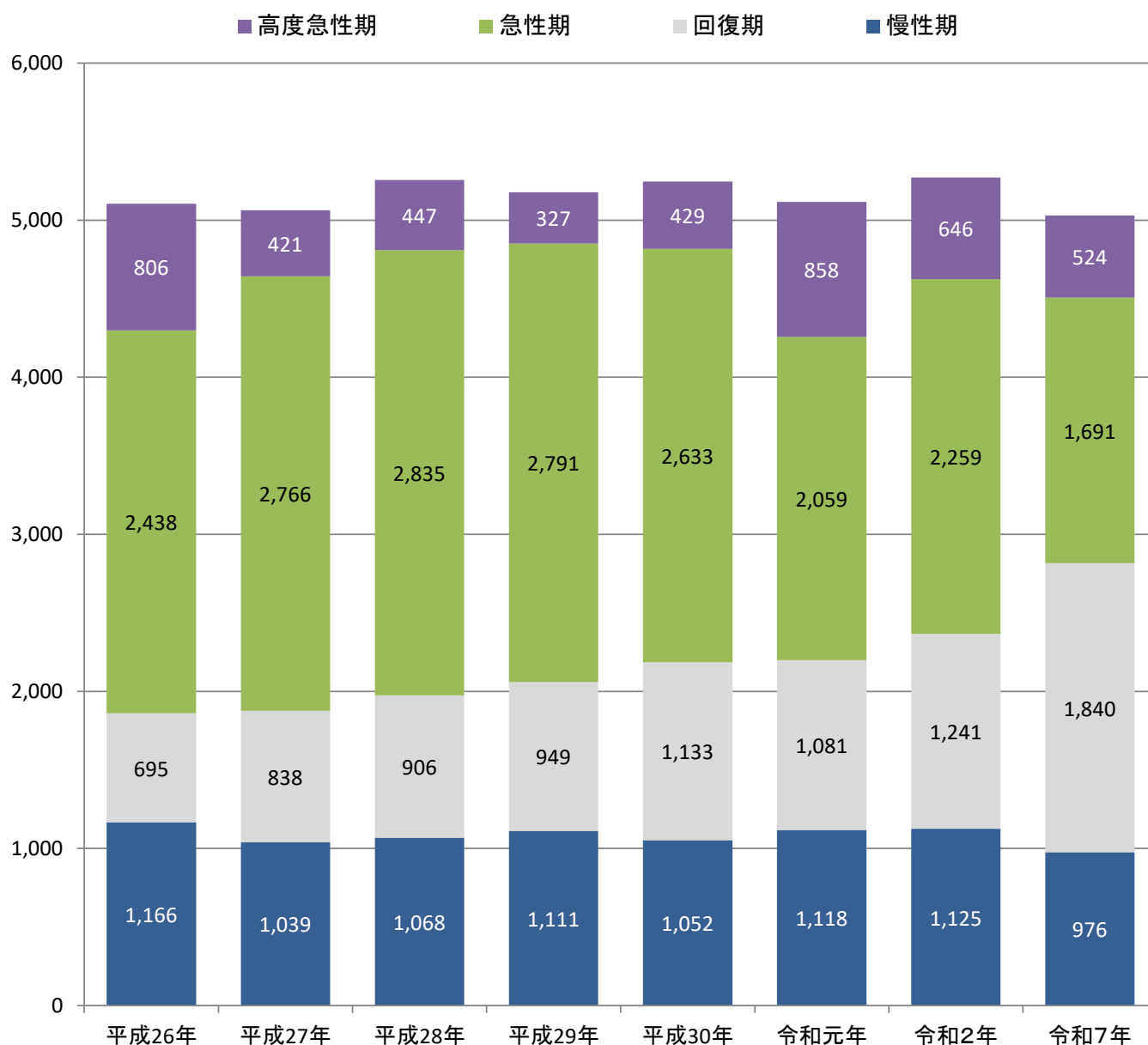


暫定推計値

	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
高度急性期	394	306	353	353	353	353	353	242
急性期	1,986	1,810	1,740	1,666	1,626	1,529	1,466	905
回復期	265	347	420	472	576	673	662	991
慢性期	1,173	1,240	1,200	1,070	1,030	989	798	726
計	3,818	3,703	3,713	3,561	3,585	3,544	3,279	2,864
(休棟等)	0	78	87	44	64	76	152	
合計	3,818	3,781	3,800	3,605	3,649	3,620	3,431	

※各年, 7月1日時点の状況

(7) 報告病床数(福山・府中圏域)

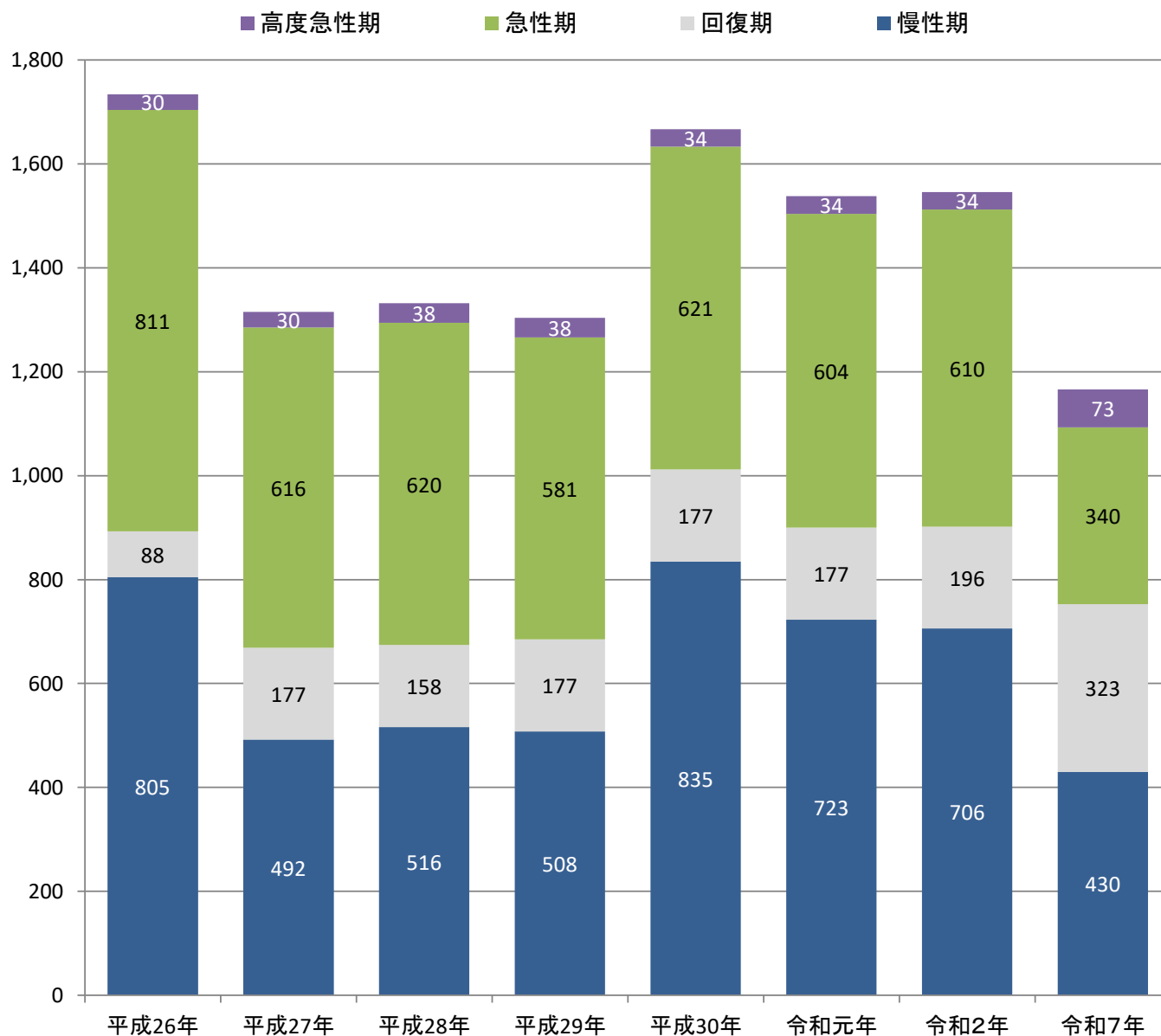


暫定推計値

	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
高度急性期	806	421	447	327	429	858	646	524
急性期	2,438	2,766	2,835	2,791	2,633	2,059	2,259	1,691
回復期	695	838	906	949	1,133	1,081	1,241	1,840
慢性期	1,166	1,039	1,068	1,111	1,052	1,118	1,125	976
計	5,105	5,064	5,256	5,178	5,247	5,116	5,271	5,031
(休棟等)	104	112	106	106	220	129	194	
合計	5,209	5,176	5,362	5,284	5,467	5,245	5,465	

※各年, 7月1日時点の状況

(8) 報告病床数(備北圏域)



暫定推計値

	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
高度急性期	30	30	38	38	34	34	34	73
急性期	811	616	620	581	621	604	610	340
回復期	88	177	158	177	177	177	196	323
慢性期	805	492	516	508	835	723	706	430
計	1,734	1,315	1,332	1,304	1,667	1,538	1,546	1,166
(休棟等)	0	10	0	0	35	19	0	
合計	1,734	1,325	1,332	1,304	1,702	1,557	1,546	

以上
以上

※各年、7月1日時点の状況

2 病床機能報告による病床数と2025年における必要病床数の比較

(単位:床)

区分	機能別病床数 (病床機能報告)							必要病床数 (暫定推計値)	2025年に向けた 病床数の過不足	
	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R7(2025)	R2-R7	
広島県	高度急性期	4,787	5,024	5,401	4,815	4,290	4,287	3,944	2,989	955
	急性期	14,209	13,001	12,657	12,939	13,249	12,165	12,409	9,118	3,291
	回復期	3,284	3,768	4,136	4,265	4,952	5,546	5,804	9,747	△ 3,943
	慢性期	10,368	9,950	9,702	9,128	9,767	9,321	8,520	6,760	1,760
	休棟等	323	517	692	436	783	727	834		834
	病床計	32,971	32,260	32,588	31,583	33,041	32,046	31,511	28,614	2,897
広島	高度急性期	2,858	3,296	3,290	3,128	2,505	2,498	2,316	1,585	731
	急性期	5,591	5,013	4,883	5,043	5,580	4,951	5,073	4,242	831
	回復期	1,400	1,400	1,590	1,628	1,894	2,402	2,386	4,506	△ 2,120
	慢性期	4,213	4,067	3,870	3,546	3,806	3,477	3,226	2,730	496
	休棟等	118	174	322	154	309	341	333		333
	病床計	14,180	13,950	13,955	13,499	14,094	13,669	13,334	13,063	271
広島西	高度急性期	561	261	260	260	260	270	270	156	114
	急性期	299	585	618	610	606	504	535	410	125
	回復期	180	180	180	209	209	247	209	515	△ 306
	慢性期	1,129	1,069	1,033	1,062	1,075	1,080	997	478	519
	休棟等	0	9	9	9	27	18	0		0
	病床計	2,169	2,104	2,100	2,150	2,177	2,119	2,011	1,559	452
呉	高度急性期	55	696	999	695	695	260	311	287	24
	急性期	1,849	1,137	935	1,189	1,162	1,557	1,516	858	658
	回復期	405	398	379	348	422	421	547	894	△ 347
	慢性期	952	1,025	1,014	905	1,024	1,039	807	751	56
	休棟等	76	109	124	112	128	135	135		135
	病床計	3,337	3,365	3,451	3,249	3,431	3,412	3,316	2,790	526
広島中央	高度急性期	83	14	14	14	14	14	14	122	△ 108
	急性期	1,235	1,074	1,026	1,059	1,021	961	950	672	278
	回復期	251	428	503	482	541	545	563	678	△ 115
	慢性期	930	1,018	1,001	926	945	895	861	669	192
	休棟等	25	25	44	11	0	9	20		20
	病床計	2,524	2,559	2,588	2,492	2,521	2,424	2,408	2,141	267
尾三	高度急性期	394	306	353	353	353	353	353	242	111
	急性期	1,986	1,810	1,740	1,666	1,626	1,529	1,466	905	561
	回復期	265	347	420	472	576	673	662	991	△ 329
	慢性期	1,173	1,240	1,200	1,070	1,030	989	798	726	72
	休棟等	0	78	87	44	64	76	152		152
	病床計	3,818	3,781	3,800	3,605	3,649	3,620	3,431	2,864	567
福山・府中	高度急性期	806	421	447	327	429	858	646	524	122
	急性期	2,438	2,766	2,835	2,791	2,633	2,059	2,259	1,691	568
	回復期	695	838	906	949	1,133	1,081	1,241	1,840	△ 599
	慢性期	1,166	1,039	1,068	1,111	1,052	1,118	1,125	976	149
	休棟等	104	112	106	106	220	129	194		194
	病床計	5,209	5,176	5,362	5,284	5,467	5,245	5,465	5,031	434
備北	高度急性期	30	30	38	38	34	34	34	73	△ 39
	急性期	811	616	620	581	621	604	610	340	270
	回復期	88	177	158	177	177	177	196	323	△ 127
	慢性期	805	492	516	508	835	723	706	430	276
	休棟等	0	10	0	0	35	19	0		0
	病床計	1,734	1,325	1,332	1,304	1,702	1,557	1,546	1,166	380


第31回地域医療構想に関する ワーキンググループ	資料2
令和3年2月12日	

令和3年度以降の病床機能報告の実施について

令和3年度以降の病床機能報告の実施における論点について

◎ 診療実績の報告の通年化に伴う論点

- 「具体的な医療の内容に関する項目」については、診療報酬の診療行為に着目して報告項目を設定し、従来、**1ヶ月分の実績（報告年度の6月診療分）**に関し、レセプト情報による診療実績の報告を求めてきたところ。
- 今後、**病床機能の分化・連携に向けてさらに議論を深めていくためには、手術等の診療実績に着目することが重要**となる中、**1ヶ月分の実績だけでは季節変動等の要素が影響することが懸念**されることから、第19回ワーキンググループ（平成31年2月22日）において、**令和3年度病床機能報告から診療実績の報告を通年化（報告前年度の4月～3月）する方針が了承**されたところ。

 診療実績の報告の通年化に伴い、取り扱うデータ量が増大することによる**病床機能報告対象病院等の負担に十分配慮**しつつ、令和3年度以降の病床機能報告の実施について見直しを検討する必要。
・ **報告内容及び報告方法（論点1・2）**


※ なお、令和2年度病床機能報告では、新型コロナウイルス感染症対応下であるため、令和3年度病床機能報告における診療実績の報告の通年化を前提として、レセプト情報による診療実績の報告を求めていない。（次頁参照）

◎ その他、改善に向けた今後の論点

- 地域における医療機能の分化・連携の議論の更なる活性化に向け、より多角的な分析が可能となるようシステムの見直しについて検討していく必要がある。

 病床機能報告制度の効率的運用や分析の多角化が図られるよう、
・ **DPC調査、G-MIS等の他の調査報告データやシステムとの連携**について、今後検討。

- 第19回ワーキンググループの議論を踏まえ、「稼働病床数」については、一般的な診療実績指標である「病床利用率」と大きな差があり、「許可病床数」とほぼ近似していることから、見直しが必要。

 「稼働病床数」について、公立病院に係る普通交付税の算定に使用されていることに留意しつつ、
・ **稼働病床数の報告の要否又は代替となる指標**について、本年夏頃に向けて検討。

令和2年度病床機能報告の実施における論点

第26回地域医療構想WG
令和2年8月14日

資料2

病床機能報告対象病院等は、医療法等の規定に基づき、病床の機能分化連携の推進のため、毎年7月1日における病床の機能等を病棟単位で都道府県知事へ報告し、都道府県知事は報告された事項について公表することとされている。

【論点1 令和2年度診療報酬改定を踏まえた「具体的な医療の内容に関する項目」の報告について】

- 報告事項のうち「具体的な医療の内容に関する項目」については、診療報酬の診療行為に着目して報告項目を設定し、毎年6月のレセプト情報による診療実績の報告を求めており、令和2年度診療報酬改定を踏まえて、報告項目の名称変更や見直しについて対応する必要がある。
- しかしながら、本年6月のレセプト情報による診療実績については、**令和3年度病床機能報告において、診療実績の報告を通年化**し、令和2年4月から令和3年3月の診療実績の報告を求めれば、**令和2年6月も含めて報告がなされる**ことを踏まえると、必ずしも**今年度の病床機能報告において求める必要はない**と思われる。また、**新型コロナウイルス感染症対応下であるため、病床機能報告対象病院等に対する負担軽減を図る**ことも重要であると考えられる。
- そのため、**令和3年度病床機能報告における診療実績の報告の通年化を前提として、令和2年度の病床機能報告ではレセプト情報による診療実績の報告を求めない**こととしてはどうか。

【論点2 その他の報告項目の追加・変更の検討について】

- 例年、病床の機能分化・連携の推進に当たり、必要な報告項目の追加、変更の検討を行っているが、**新型コロナウイルス感染症対応下であることから、病床機能報告対象病院等に対して新たな対応を求めることは困難**であると考えられる。
- そのため、令和2年度病床機能報告では、論点1の「具体的な医療の内容に関する項目」を除き、**報告項目の追加・変更を行わない**こととしてはどうか。

論点1：報告内容及び報告方法について（診療実績）

- 令和3年度病床機能報告における診療実績については、病棟ごとに1年分を報告することとなるため、病床機能報告対象病院等に対し過度な負担増加につながらないように十分に配慮しつつ、実態に即した報告が行われるよう、以下のとおり対応することとしてはどうか。

	これまでの取扱い	令和3年度以降の取扱い（案）
報告内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1ヶ月分の診療実績を病棟別に報告（年1回）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年分の月別の診療実績を病棟別に報告（年1回）。 ○ 地域における病床機能分化・連携の議論の活性化や、地域医療構想調整会議等におけるデータの利活用状況等を踏まえつつ、活用頻度の低い項目を報告対象外とすることも含め、適切な項目設定について検討。
報告方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国において、NDBにより、公費レセプトを除いた診療実績データを整理し、各医療機関に対して提供。 ○ 各医療機関において、以下の作業を実施した上で、診療実績を報告。 <ol style="list-style-type: none"> ① 国から提供されたデータを、病床機能報告の様式に手作業（コピー・アンド・ペースト等）で転記 ② 公費レセプト、労災レセプト、自賠責レセプト、紙レセプトによる診療実績を、病床機能報告の様式に追加入力 <p>※ 各医療機関に対し、レセプトへの病棟コードの記録を求めており、国では病棟コードを元に病棟別の診療実績データを整理・提供。 レセプトに病棟コードを記録していない医療機関は、可能な範囲で、診療実績を病棟別に振り分けて報告。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国において、NDBより、公費レセプト分を含めた診療実績データを整理し、各医療機関に対して提供。 <p>※公費レセプト分を含めることで、診療報酬請求レセプトのうち98%をカバー。（残り2%は、紙レセプト請求分）※注 注：レセプト請求形態別の請求状況 令和2年9月診療分（社会保険診療報酬支払基金HPより）</p> ○ 各医療機関において、以下の作業を実施した上で、診療実績を報告。 <ol style="list-style-type: none"> ① 国から提供されたデータを、病床機能報告の様式に自動的に転記（反映ボタンを押下するだけで月別、病棟別に報告様式に反映されるよう運用） ② 労災レセプト、自賠責レセプト、紙レセプトによる診療実績を、病床機能報告の様式に追加入力 <p>※ 令和2年7月診療分（8月請求分）のレセプト請求において、レセプトに病棟コードを記録している医療機関は6割弱。 レセプトに病棟コードを記録していない医療機関は、引き続き、可能な範囲で、診療実績を病棟別に振り分けて報告。（病院全体の実績を特定の病棟にまとめた上で報告することも可能） なお、実態に即した報告が行われるよう、令和4年度診療報酬改定に向けて、各病院で病棟コードが確実に記録されるような方策を検討。</p>

論点2：報告内容及び報告方法について（その他）

- 診療実績の報告内容・方法のほか、令和3年度以降の病床機能報告において、以下のとおり対応することとしてはどうか。

対応1：診療実績以外の年間実績の報告について

- 1年間の新規入棟患者数（予定入院・緊急入院別）や救急車の受入件数など、**従前から年間実績を報告することとなっている項目についても、医療機関における実務の状況を踏まえつつ、月別に報告することとしてはどうか。**
なお、**月別の診療実績の報告が困難な医療機関においては、医療機関の負担を踏まえ、当面、月別の報告は任意とし、報告対象病院等における毎月病棟コードの記録が実施されることとなった段階（前頁参照）において、月別の報告を必須**とすることとしてはどうか。

対応2：紙媒体による報告について

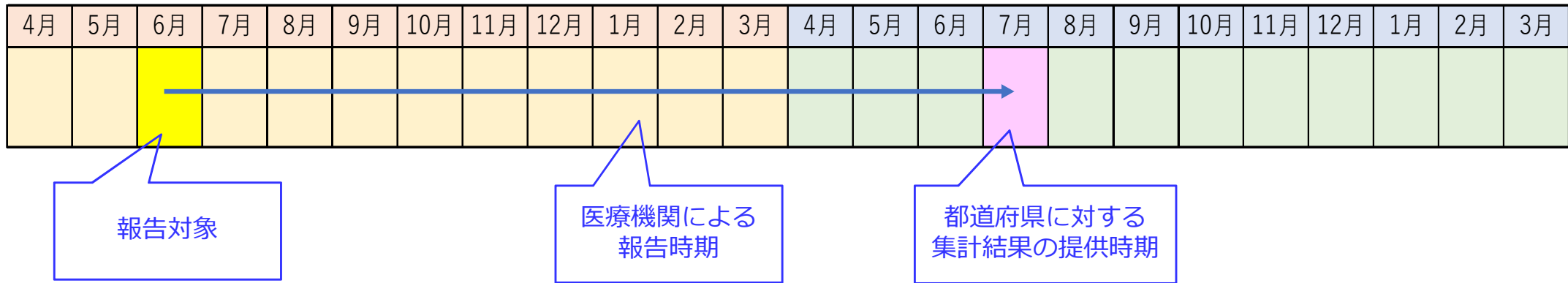
- 診療実績について病棟ごとに1年分を報告することとなり、取り扱うデータ量が大幅に増加することから、医療機関側（報告）と行政側（集計・精査）の双方の業務効率化を図る観点から、紙媒体により病床機能報告を行っている医療機関に対し、**令和3年度より電子による報告を促しつつ、紙媒体とする理由を把握しながら、令和5年度を目途に、原則として電子による報告とし、**やむを得ない事情がある場合に限り、紙媒体による報告を行うことも可能としてはどうか。なお、業務負荷の観点から、紙媒体による報告を行う場合、診療実績については、月別ではなく年間合計数のみ報告すれば足りることとしてはどうか。

※ 紙媒体により病床機能報告を行っている医療機関（令和2年度）：
1083医療機関（104病院、979有床診療所）（令和3年1月末現在）

参考：実施スケジュールについて

診療実績の 報告通年化イメージ

旧方式（～令和2年度報告）



新方式（令和3年度報告～）

